

問題 1 消費税の処理 1 A

基本

次の各取引の仕訳を示しなさい。なお、消費税率は8%とし、消費税の処理は税抜方式によっている。

- (1) 商品3,240千円(税込み)を掛けて仕入れた。
- (2) 商品7,560千円(税込み)を掛けて売り上げた。
- (3) 備品2,160千円(税込み)を購入し、代金は月末に支払うこととした。
- (4) 当期に掛けて売り上げた商品に対し、540千円(税込み)の売上値引を行った。
- (5) 当期の取引を集計したところ、仮払消費税等は400千円、仮受消費税等は520千円であった。

問題 2 消費税の処理 2 B

基本

次の各取引の仕訳を示しなさい。なお、(税込み)とある取引については消費税等8%が含まれており、(税抜き)とある取引については消費税等8%が含まれていない。(税込み)または(税抜き)とある取引については消費税等を考慮し、消費税等の処理は税抜方式によっている。また、仕訳のさいに使用する勘定科目は、以下の枠内のものを使用すること。

現 金	当 座 預 金	売 掛 金	未 収 消 費 税 等
仮 払 消 費 税 等	備 品	買 掛 金	未 払 消 費 税 等
仮 受 消 費 税 等	売 上	固 定 資 産 売 却 益	仕 入
貸 倒 損 失	固 定 資 産 売 却 損		

- (1) 期首に備品12,960千円(税込み)を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。
- (2) 期首に備品(帳簿価額5,000千円)を5,184千円(税込み)で売却し、代金は小切手で受け取った。
- (3) 商品3,800千円(税抜き)を掛けて仕入れた。
- (4) 商品6,300千円(税抜き)を掛けて売り上げた。
- (5) 当期に販売した商品にかかる売掛金のうち、1,080千円(税込み)が貸し倒れた。
- (6) 上記(1)～(5)にもとづき、決算で消費税等の納付額または還付額を計上した。

問題 3 消費税の処理 3 B

応用

次の取引の仕訳を示しなさい。なお、(税込み)とあるものについては消費税8%(税抜方式によって)を考慮すること。

当期首において、旧車両(取得原価2,000,000千円、期首減価償却累計額875,000千円、間接法により記帳)を1,015,200千円(税込み)で下取りに出し、新車両1,944,000千円(税込み)を購入し、差額の928,800千円を現金で支払った。

問題 4 消費税の処理 4 A

応用

次の資料にもとづいて、答案用紙の決算整理後残高試算表(一部)を完成させなさい。なお、商品の売買についてはすべて掛けで行っている。また、資料中に(税込み)とある取引についてのみ、消費税8%を考慮すること。

【資料1】 決算整理前残高試算表(一部)

決算整理前残高試算表				(単位：千円)	
勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
売掛金	125,808	買掛金	95,000		
仮払消費税等	24,000	仮受消費税等	38,400		
備品	63,000	貸倒引当金	2,700		
仕入	300,000	備品減価償却累計額	34,020		
租税公課	12,270	売上	480,000		

【資料2】 修正および決算整理事項

- 商品3,024千円(税込み)を仕入れていたが、未記帳であった。
- 仕入れた商品のうち432千円(税込み)は不良品であったため返品していたが、未記帳であった。
- 前期発生の売掛金2,808千円(税込み)は、取引先の倒産により回収の見込みがなくなったと判断し、全額を貸倒れ処理する。
- 売掛金の期末残高に対し、貸倒実績率3%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- 期首および期末において、商品の在庫はなかった。
- 期中に備品のすべてを28,080千円(税込み)で売却し、代金は翌期に受け取ることとしたが、未処理であった。なお、期首から売却時までの減価償却費は5,670千円であり、期中の備品にかかる取引はほかになかった。
- 消費税等の中間納付額4,500千円を納付したさい、租税公課で処理していた。
- 消費税等の納税額(仮受消費税等の残高から仮払消費税等の残高を控除した金額)に対して、未払消費税等を計上する。

1 負債会計
2 退職給付会計
3 純資産会計
4 税効果会計
5 (問題なし)損益計算書の概要
6 消費税
7 商品売買
8 特殊商品売買
9 営業費
10 法務費

問題 5 消費税の処理 5

B (第56回・本試験改題)

応用

NS株式会社(当社)は、商品の販売業を営んでおり、当期(×1年4月1日～×2年3月31日)の2月末現在の残高試算表(一部)は、【資料1】のとおりである。

【資料1】、【資料2】(×2年3月中の取引)および【資料3】(修正および決算整理事項)にもとづいて、決算整理後残高試算表(一部)を完成させなさい。

(留意事項)

消費税および地方消費税(以下「消費税等」という)の会計処理は、税抜方式を採用している。資料中の(税込み)とある取引のみ消費税等8%を考慮すること。

【資料1】 ×2年2月末残高試算表(一部)

勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
現 金	20,816	買 掛 金	98,740
当 座 預 金	135,072	仮 受 消 費 税 等	11,104
売 掛 金	59,218	貸 倒 引 当 金	350
繰 越 商 品	4,728	売 上	138,535
仮 払 消 費 税 等	7,312		
仮 払 金	120		
商 品 仕 入	91,303		
営 業 費	4,596		

【資料2】 ×2年3月中の取引

- 1 商品の売上は掛売上51,732千円(税込み)であった。売掛金の回収は、当座預金への振込みが27,817千円、小切手による回収が12,701千円、買掛金との相殺が11,628千円であった。
- 2 商品について、得意先から2月売上分972千円(税込み)について売掛金の回収前に返品があり、商品を受け入れた。
- 3 営業費7,884千円(税込み)が当座預金から支払われている。

【資料3】 修正および決算整理事項

- 1 修正事項
 - (1) 得意先M社に対して、期末に売掛金の残高確認を行ったところ、先方の買掛金残高は3,552千円、当方の売掛金残高は3,984千円であった。差異の原因を調査したところ、当社営業担当者がM社に対して商品売上値引432千円(税込み)を行っていたが、当社の営業担当者から経理担当者への通知がなされておらず、会計処理を行っていなかった。
 - (2) 仮払金は、営業担当者の出張旅費(営業費)の仮払額である。営業担当者は出張後、経理部に領収書(交通費及び宿泊費108千円(税込み))と残額の現金を持参していたが、経理担当者は処理を行っていなかった。
- 2 決算整理事項
 - (1) 期末商品棚卸高は3,825千円(【資料2】2の返品分を含む)であり、減耗損や評価損は計上されなかった。
 - (2) 貸倒引当金は、売掛金の期末残高に対し1.0%相当額とする。なお、繰入れは差額補充法により行う。
 - (3) 消費税等の納税額(仮受消費税等の残高から仮払消費税等の残高を控除した金額)に対して「未払消費税等」を計上する。

(単位：千円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	仕入	3,000	買掛金	3,240
	仮払消費税等	240		
(2)	売掛金	7,560	売上	7,000
			仮受消費税等	560
(3)	備品	2,000	未払金	2,160
	仮払消費税等	160		
(4)	売上	500	売掛金	540
	仮受消費税等	40		
(5)	仮受消費税等	520	仮払消費税等	400
			未払消費税等	120

解説

Point

消費税等の税抜方式の会計処理をマスターします。

消費税の金額は次のように求めます。

$$(1) \quad 3,240 \text{ 千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 240 \text{ 千円}$$

$$(2) \quad 7,560 \text{ 千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 560 \text{ 千円}$$

$$(3) \quad 2,160 \text{ 千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 160 \text{ 千円}$$

$$(4) \quad 540 \text{ 千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 40 \text{ 千円}$$

(5) 未払消費税等は、仮受消費税等と仮払消費税等との差額で求めます。

1 負債会計

2 退職給付会計

3 純資産会計

4 税効果会計

5 (問題なし)
損益計算書の概要

6 消費税

7 商品売買

8 特殊商品売買

9 営業費

10 法人等・損益課

(単位：千円)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	備品	12,000	当座預金	12,960
	仮払消費税等	960		
(2)	現金	5,184	備品	5,000
	固定資産売却損	200	仮受消費税等	384
(3)	仕入	3,800	買掛金	4,104
	仮払消費税等	304		
(4)	売掛金	6,804	売上	6,300
			仮受消費税等	504
(5)	貸倒損失	1,000	売掛金	1,080
	仮受消費税等	80		
(6)	仮受消費税等	808	仮払消費税等	1,264
	未収消費税等	456		

解説

Point

(税込み) という指示と (税抜き) という指示の両方があるので、金額の先入観にとらわれずに問題文をよく読みましょう！

消費税等の金額の計算式

$$(1) 12,960 \text{ 千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 960 \text{ 千円}$$

$$(2) 5,184 \text{ 千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 384 \text{ 千円}$$

代金の税抜金額4,800千円が売却価額となるので、帳簿価額5,000千円との差額200千円が売却損として計上されます。

$$(3) 3,800 \text{ 千円} \times 0.08 = 304 \text{ 千円 (3,800 千円が「税抜き」である点に注意)}$$

$$(4) 6,300 \text{ 千円} \times 0.08 = 504 \text{ 千円 (6,300 千円が「税抜き」である点に注意)}$$

$$(5) 1,080 \text{ 千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 80 \text{ 千円}$$

(6) 未収消費税等は、仮受消費税等と仮払消費税等との差額で求めます。

仮払消費税等		仮受消費税等	
(1)	960	(5)	80
(3)	304	(2)	384
		(4)	504

∴ 仮受消費税等 808 千円 - 仮払消費税等 1,264 千円 = △ 456 千円 (還付 = 未収消費税等)

(単位：千円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
車両減価償却累計額	875,000	車 両	2,000,000
固定資産売却損	185,000	仮受消費税等	75,200
車 両	1,800,000	現金預金	928,800
仮払消費税等	144,000		

※『現金預金』は『現金』でも可。

解説

「旧車両の売却仕訳」と「新車両の購入仕訳」を行い、両者を合算します。

なお、消費税の金額は簿価ではなく、実際に売却した金額(1,015,200千円)、実際に購入した金額(1,944,000千円)をもとに計算する点に注意しましょう。

(1)旧車両の売却

(借) 車両減価償却累計額	875,000	(貸) 車 両	2,000,000
現金預金	1,015,200	仮受消費税等	75,200 ^{*01)}
固定資産売却損	185,000 ^{*02)}		

*01) $1,015,200 \text{千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 75,200 \text{千円}$

*02) 貸借差額

(2)新車両の購入

(借) 車 両	1,800,000	(貸) 現金預金	1,944,000
仮払消費税等	144,000 ^{*03)}		

*03) $1,944,000 \text{千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 144,000 \text{千円}$

(1) + (2) が解答の仕訳となります。

1 負債会計

2 退職給付会計

3 純資産会計

4 税効果会計

5 (問題なし) 損計算書の概要

6 消費税

7 商品売買

8 特殊商品売買

9 営業費

10 決算・損益課

決算整理後残高試算表

(単位：千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額
売掛金	(123,000)	買掛金	(97,592)
未収金	(28,080)	未払消費税等	(11,580)
仕入	(302,400)	貸倒引当金	(3,690)
租税公課	(7,770)	売上	(480,000)
貸倒引当金繰入	(3,590)	固定資産売却益	(2,690)
減価償却費	(5,670)		

解説

(以下、仕訳の単位：千円)

修正および決算整理事項

1 仕入処理

(借) 仕入	2,800	(貸) 買掛金	3,024
仮払消費税等	224 ^{*01)}		

$$*01) 3,024千円 \times \frac{0.08}{1.08} = 224千円$$

2 仕入返品

(借) 買掛金	432	(貸) 仕入	400
		仮払消費税等	32 ^{*02)}

$$*02) 432千円 \times \frac{0.08}{1.08} = 32千円$$

3 貸倒処理(前期発生売掛金)

税込み債権が貸し倒れた場合、その債権が発生したのが前期以前であっても当期であっても、『仮受消費税等』を減額する処理をします。

(借) 貸倒引当金	2,600	(貸) 売掛金	2,808
仮受消費税等	208 ^{*03)}		

$$*03) 2,808千円 \times \frac{0.08}{1.08} = 208千円$$

4 貸倒引当金の設定

貸倒引当金は、債権(売掛金)に消費税が含まれていても、消費税込みの期末残高に対して設定します。

(借) 貸倒引当金繰入	3,590	(貸) 貸倒引当金	3,590
-------------	-------	-----------	-------

売掛金	
前T/B	125,808
資 2. 3	2,808
	128,616

∴ 売掛金期末残高：123,000千円
 貸倒引当金：123,000千円 × 0.03 = 3,690千円
 ∴ 貸倒引当金繰入額：3,690千円 - (2,700千円 - 2,600千円)
 = 3,590千円

5 売上原価の算定

期首および期末に在庫がないため、処理はありません。

6 備品の期中売却

固定資産を売却した場合は、簿価ではなく売却価額に対して消費税がかかります。

(借) 備品減価償却累計額	34,020	(貸) 備品	63,000
減価償却費	5,670	仮受消費税等	2,080 ^{*04)}
未収金	28,080	固定資産売却益	2,690 ^{*05)}

*04) $28,080 \text{千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 2,080 \text{千円}$

*05) 貸借差額

7 消費税の中間納付

期中に行った仕訳が誤っているので、正しい仕訳に訂正します。

① 期中に行った誤った仕訳

(借) 租税公課	4,500	(貸) 現金預金	4,500
----------	-------	----------	-------

② 正しい仕訳

(借) 仮払消費税等	4,500	(貸) 現金預金	4,500
------------	-------	----------	-------

③ 修正仕訳(①の逆仕訳+②)

(借) 仮払消費税等	4,500	(貸) 租税公課	4,500
------------	-------	----------	-------

8 未払消費税等の算定

(借) 仮受消費税等	40,272	(貸) 仮払消費税等	28,692
		未払消費税等	11,580 ^{*06)}

*06) 貸借差額

	仮払消費税等		仮受消費税等				
前T/B	24,000	資2.2	32	資2.3	208	前T/B	38,400
資2.1	224					資2.6	2,080
資2.7	4,500						

以上より、期末残高は、『仮払消費税等』 = 28,692千円、『仮受消費税等』 = 40,272千円となり、その差額11,580千円が未払消費税等となります。

決算整理後残高試算表

(単位：千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金	(33,529)	買掛金	(87,112)
当座預金	(155,005)	未払消費税等	(6,928)
売掛金	(57,400)	貸倒引当金	(574)
繰越商品	(3,825)	売上	(185,135)
商品仕入	(92,206)		
営業費	(11,996)		
貸倒引当金繰入	(224)		

解説

P
point

本問は2月末の残高試算表に、3月中の取引および決算整理事項等の内容を加減して、決算整理後残高試算表を作成する問題で、本試験総合問題のパターンの1つです。

3月中取引、決算整理事項等の順に処理してください。文章が長くても内容は簡単なこともあるので、焦らずに問題文を読んで、丁寧に解くように心がけましょう。

×2年3月中の取引

1 ①売上処理

(借) 売掛金	51,732	(貸) 売上	47,900
		仮受消費税等	3,832 ^{*01}

$$*01) 51,732 \text{千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 3,832 \text{千円}$$

②売掛金の回収

(借) 当座預金	27,817	(貸) 売掛金	52,146
現金	12,701		
買掛金	11,628		

2 売上返品

(借) 売上	900	(貸) 売掛金	972
仮受消費税等	72 ^{*02}		

$$*02) 972 \text{千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 72 \text{千円}$$

3 営業費の支払い

(借) 営業費	7,300	(貸) 当座預金	7,884
仮払消費税等	584 ^{*03}		

$$*03) 7,884 \text{千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 584 \text{千円}$$

修正および決算整理事項

1 (1) 売上値引

(借) 売上 仮受消費税等	400 32 ^{*04)}	(貸) 売掛金	432
------------------	---------------------------	---------	-----

*04) $432 \text{千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 32 \text{千円}$

(2) 仮払金の営業費への振替え

(借) 営業費 仮払消費税等 現金	100 8 ^{*05)} 12 ^{*06)}	(貸) 仮払金	120
-------------------------	--	---------	-----

*05) $108 \text{千円} \times \frac{0.08}{1.08} = 8 \text{千円}$

*06) 貸借差額

2 (1) 売上原価の算定

(借) 商品仕入	4,728	(貸) 繰越商品	4,728
(借) 繰越商品	3,825	(貸) 商品仕入	3,825

(2) 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入	224	(貸) 貸倒引当金	224
-------------	-----	-----------	-----

売掛金				
前T/B	59,218	資2.1	52,146	∴ 売掛金期末残高：57,400千円
資2.1	51,732	資2.2	972	貸倒引当金：574千円 ^{*07)}
		資3.1(1)	432	∴ 貸倒引当金繰入額：574千円 - 350千円(前T/B) = 224千円

*07) $57,400 \text{千円} \times 0.01 = 574 \text{千円}$

(3) 未払消費税等の算定

(借) 仮受消費税等	14,832	(貸) 仮払消費税等 未払消費税等	7,904 6,928 ^{*08)}
------------	--------	----------------------	--------------------------------

*08) 貸借差額

仮払消費税等		仮受消費税等	
前T/B	7,312	資2.2	72
資2.3	584	資3.1(1)	32
資3.1(2)	8	前T/B	11,104
		資2.1	3,832

以上より、期末残高は、『仮払消費税等』= 7,904千円、『仮受消費税等』= 14,832千円となり、その差額6,928千円が未払消費税等となります。

1 負債会計

2 退職給付会計

3 純資産会計

4 税効果会計

5 (問題なし)
損益計算書の概要

6 消費税

7 商品売買

8 特殊商品売買

9 営業費

10 法務・租税

..... *Memorandum Sheet*